

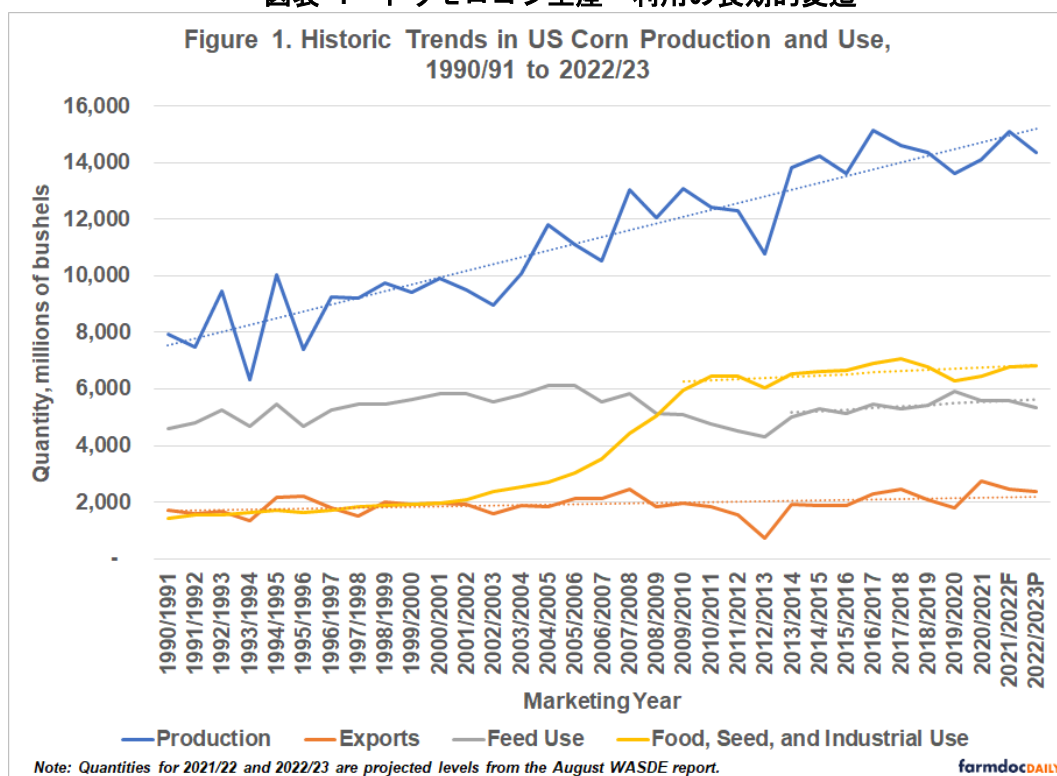
2. 米国農業の構造

2.1. 主要農産物の生産・消費動向

(1) 中長期的傾向

米国農務省（USDA）が公表している「世界農業需給予測（World Agricultural Supply and Demand Estimate: WASDE）」によると、米国のトウモロコシ生産量は長期的に増加傾向にある。用途別に見ると輸出と飼料向けは横ばいであり、2000 年代後半以降は食料・種子・産業利用（Food, Seed, and Industrial Use: FSI）目的の増加が顕著である。

図表 1 トウモロコシ生産・利用の長期的変遷



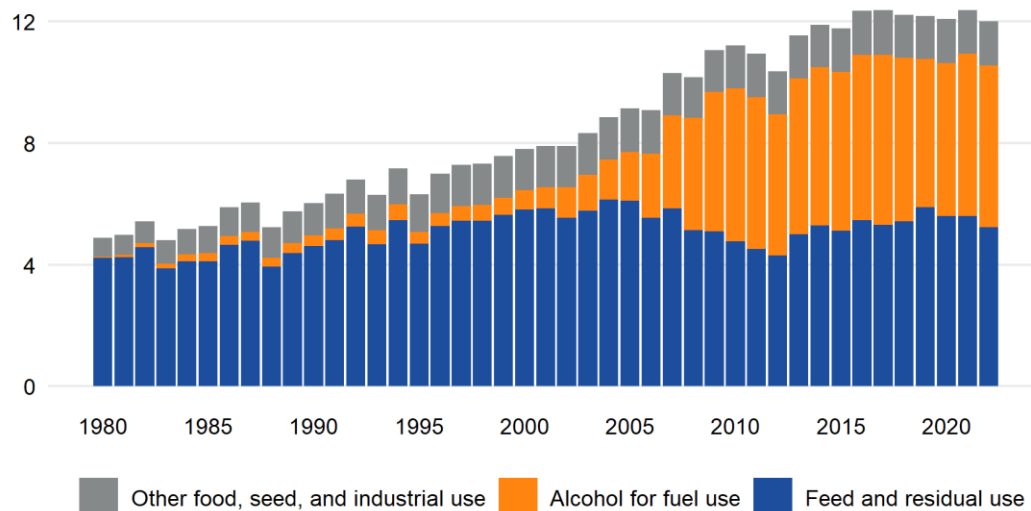
（出所）"WASDE Recap for August 2022: Yield News Now, Demand News to Come." *farmdoc daily*, August 17, 2022

図表 2 は米国内でのトウモロコシの消費状況を示しているが、国内消費の 6 割を FSI が占め、その中でも 2000 年代半ば以降でバイオエタノール向け用途が著しく拡大している。

図表 2 トウモロコシの消費状況

U.S. domestic corn use

Billion bushels



Updated: September 2022.

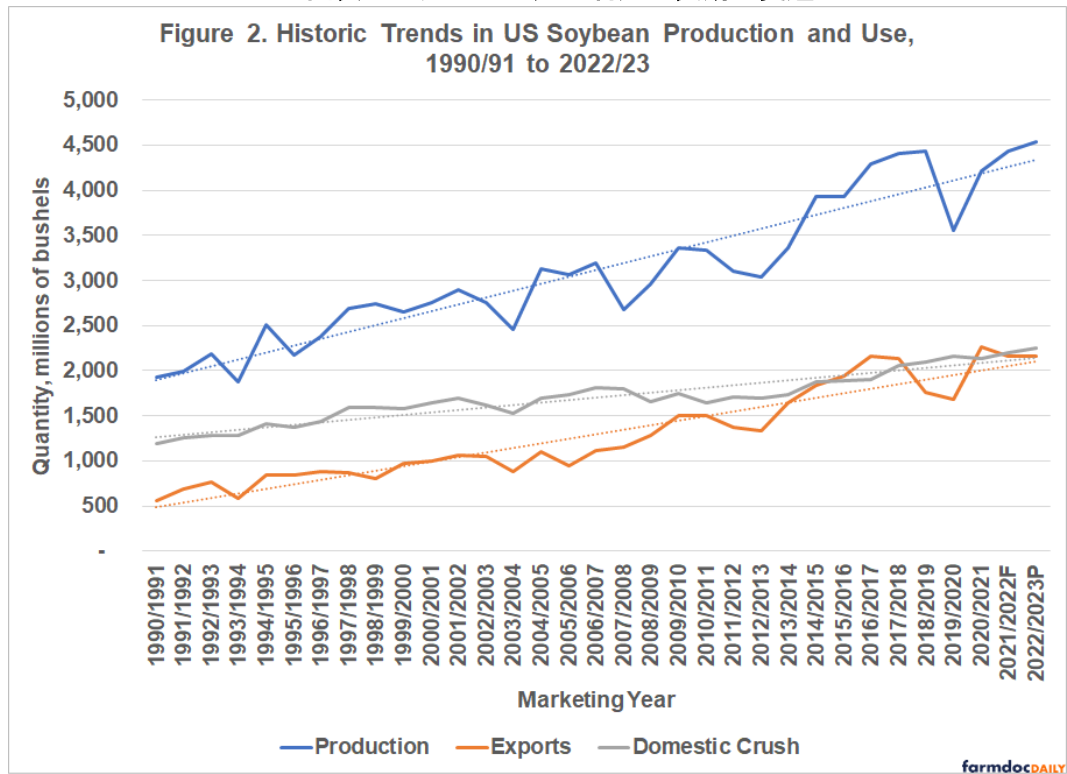
Source: USDA, National Agricultural Statistics Service.

(出所) USDA/ERS, “Feed Grains Sector at a Glance,”

<https://www.ers.usda.gov/topics/crops/corn-and-other-feed-grains/feed-grains-sector-at-a-glance/>.

大豆も長期的に生産が増加傾向にある。輸出向けと国内向けのクラッシュ大豆のいずれも量は増えているが、輸出向け大豆のほうが伸び率が高く、2010年代に入り国内向けクラッシュ大豆を上回っている。

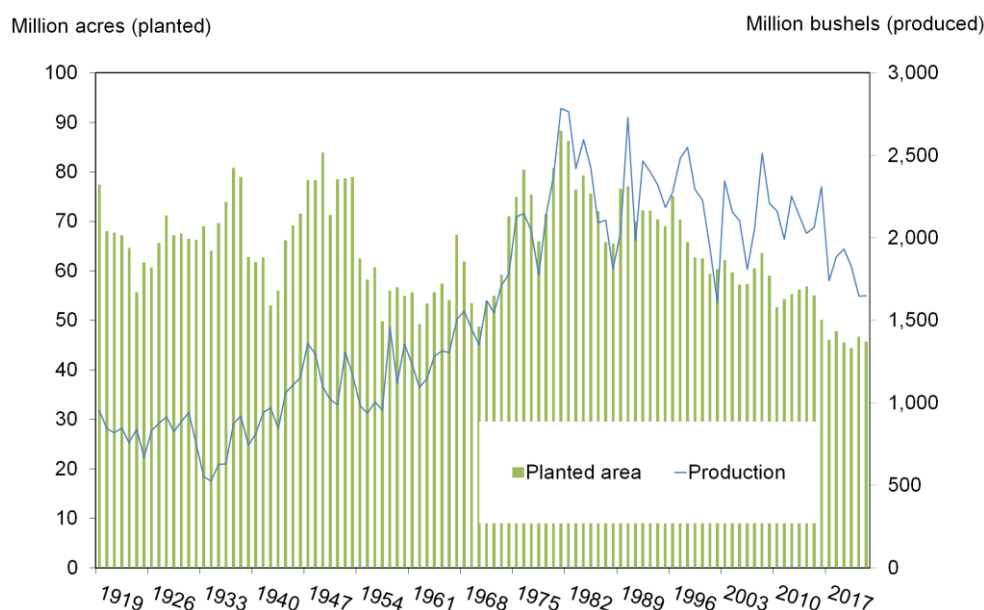
図表 3 大豆の生産・利用の長期的変遷



(出所) "WASDE Recap for August 2022: Yield News Now, Demand News to Come." *farmdoc daily*, August 17, 2022

小麦は米国で3番目に生産量の多い作物であり、2022/2023年には収穫面積が3,550万エーカー、生産量が16億5,000万ブッシェルになると見込まれている（冬小麦、春小麦、デュラム小麦の合計）。小麦の収穫面積や生産量は減少傾向にあり、ピークだった1981年と比較すると、収穫面積が4,200万エーカーの減少、生産量が11億ブッシェルの減少となっている。

図表 4 小麦の作付け面積と生産量の推移(単位、100 万エーカー、100 万ブッシェル)
U.S. wheat planted area and production, 1919–2022



Source: USDA, National Agricultural Statistics Service.

(出所) USDA/ERS, “Wheat Sector at a Glance,” <https://www.ers.usda.gov/topics/crops/wheat/wheat-sector-at-a-glance/>.

USDA によると、世界の小麦市場の競争が激しくなっていて、小麦から得られる米国農家の収入は他の作物に比較して下落している。また、小麦はトウモロコシや大豆に比べてイノベーションが遅れていることも小麦生産減少の一因である。他の穀物に比べて小麦は遺伝的特徴が非常に複雑であり研究に投資をしても見返りが少ないことや、小麦のほとんどは人の消費目的であり、米国の食品加工業者は遺伝子組み換え（GM）小麦を含む食品に対する消費者の反応を警戒していて米国では GM 小麦が商業的に栽培されていないことがその背景にあるとされる¹。

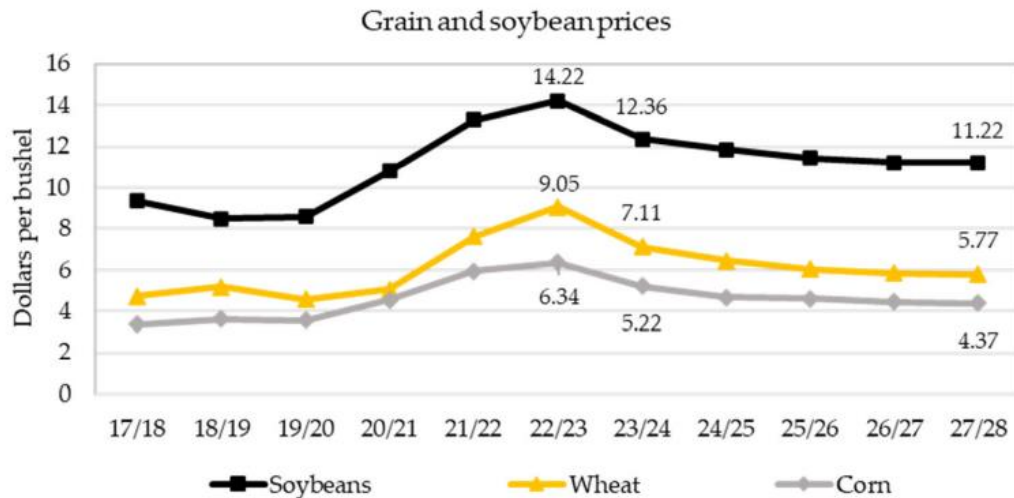
また、低糖質食やグルテンフリー食品を志向する消費者が増えている結果、2000 年以降、小麦の消費量は減少傾向にある。

2.2. 農産物の価格動向

ミズーリ大学食料農業政策研究所（Food and Agricultural Policy Research Institute: FAPRI）が 2022 年 8 月に公表した農業市場指標（Baseline Update for U.S. Agricultural Markets）によると多くの農産物で作物価格が高止まりすると予想されている（ただし、農業市場指標の予測は更新されるたびに予測値が変わることには留意が必要である）。

¹ USDA/ERS, “Wheat Sector at a Glance,” <https://www.ers.usda.gov/topics/crops/wheat/wheat-sector-at-a-glance/>.

図表 5 主要穀物の価格予測（ドル/ブッシェル）



（出所）FAPRI-MU, Baseline Update for U.S. Agricultural Markets, August 2022, p.3.

2022/2023 年度の大豆価格は 1 ブッシェルあたり 14.22 ドル、小麦は同 9.05 ドル、トウモロコシは同 6.34 ドルで、いずれも前年度比から上昇が見て取れる。2023/2024 年度以降は価格の下落がするものの、それでも 2010 年代後半よりは高値で推移すると見込まれている。直帰の作物価格の高騰はウクライナ情勢に起因する主要穀物や油糧種子の輸出減が大きな要因であり、ウクライナでの生産や輸出の減少が 2023 年も改善されないという前提が置かれている。

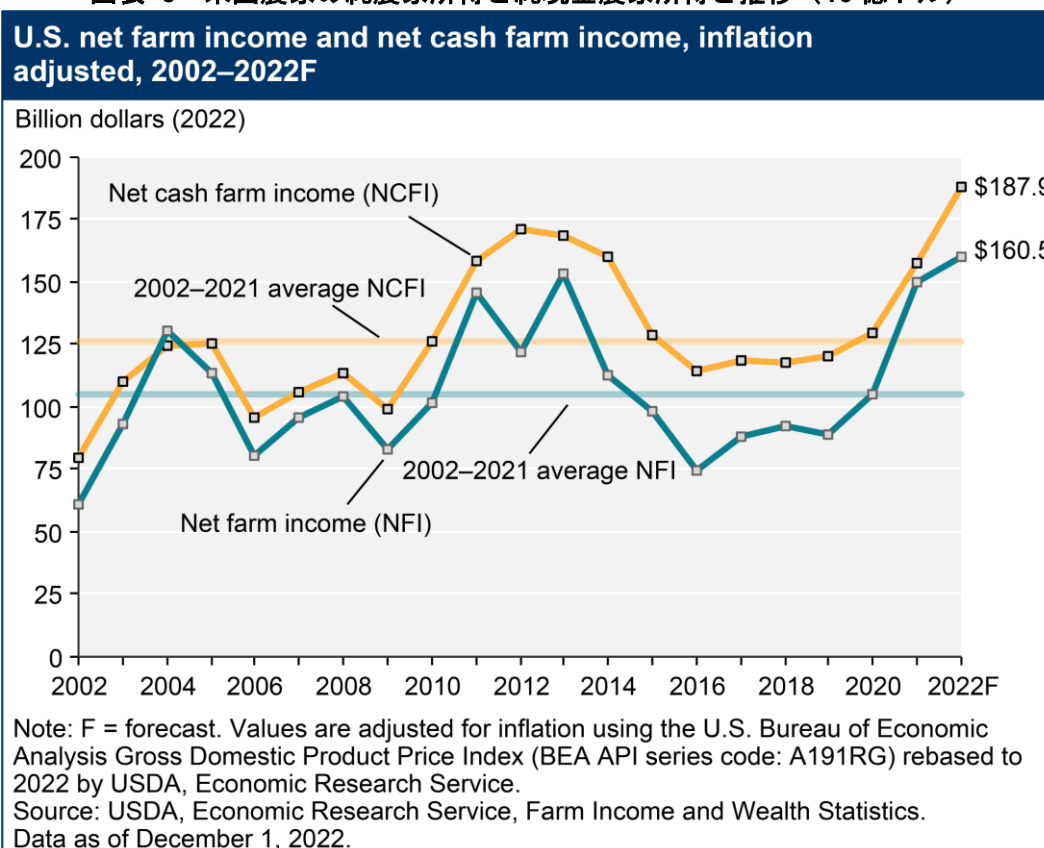
2.3. 米国農家の所得

(1) 農家所得

2022 年 12 月 1 日に発表された米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) による推計では、2022 年の農家純所得 (net farm income) は、1,605 億ドルで前年から 195 億ドル、13.8% の増加と予測されている²。図表 6 で示されているとおり、2010 年代後半から農家所得は上昇基調にあり、2002 年から 2021 年の農家純所得の平均値を大きく上回っている（農家現金純所得 (net cash farm income) についても同様の傾向にある）。ERS の予測どおりに所得が増加すれば、農家純所得は 1973 年以降で最も高い値となる。

² USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022, <https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

図表 6 米国農家の純農家所得と純現金農家所得と推移（10 億ドル）



（注）インフレ調整後、2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022,

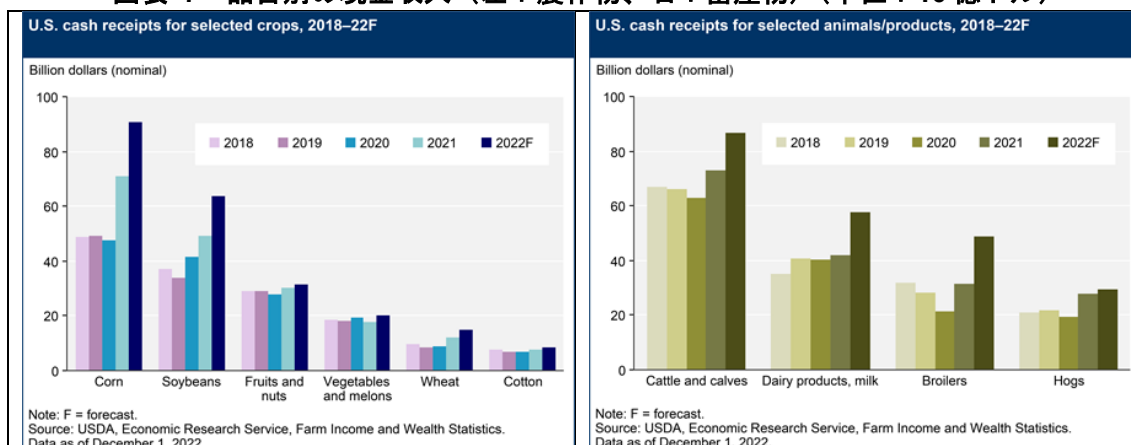
<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

品目別の現金収入（cash receipts）を見ると、農作物（トウモロコシ、大豆、果実・ナッツ、野菜・メロン、小麦、綿花³）と畜産物（ウシ・子牛、乳製品・牛乳、肉用鶏、ブタ）のいずれについても 2022 年は前年比で増加すると予想されている。現金収入の増加のほとんどは価格の増加が寄与している（USDA/ERS は 2021 年から 2022 年の現金収入の増加分である 1,057 億ドルのうち、968 億ドルは価格上昇を要因としていると分析）⁴。

³ 本報告書では、断りが無い限り、cotton を綿花、seed cotton を実綿、cotton seed を綿実と訳している。

⁴ USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022, <https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

図表 7 品目別の現金収入（左：農作物、右：畜産物）（単位：10 億ドル）



（注）2022 年は予測値。

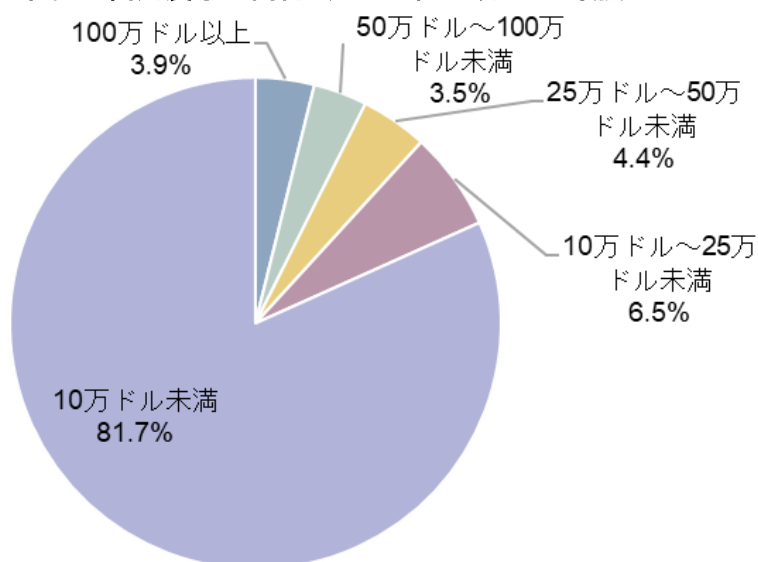
（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022 より転載。

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

総売上高（gross sales value）に基づく農家規模を見ると、2022 年 12 月 1 日時点で売上高 10 万ドル未満の農家が全体の約 8 割を占めている。売上高が 100 万ドルを超える農家は全体の約 4%を占めている。

2022 年の各区分の一農家当たりの農家純所得の平均を見ると、売上高 100 万ドル以上の農家の平均農家純所得は約 102 万ドルであり、反対に売上高 10 万ドル未満の平均農家純所得はマイナス 4,200 ドルである。全体の 8 割を占める売上高 10 万ドル未満の農家は、農業から収益を得られていないことが読み取れる。

図表 8 総売上高別農家の割合（2022 年 12 月 1 日時点）



（出所）USDA/ERS, Farm-level average net cash income by sales class and typology, 2013-2022F に基づき MURC 作成。

図表 9 総売上高別農家の農家当たりの平均農家純所得（単位：1,000 ドル）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
100 万ドル以上	844.1	772.6	709.5	686.6	657.7	624.2	677.1	734.3	898.0	1,022.4
50 万ドル～100 万 ドル未満	228.6	205.2	199.8	183.2	183.1	196.9	174.3	218.6	260.7	277.1
25 万ドル～50 万 ドル未満	145.8	118.4	103.8	101.7	92.6	94.3	98.4	112.5	125.4	135.4
10 万ドル～25 万 ドル未満	51.8	51.9	42.0	41.5	47.3	35.9	40.4	53.1	57.4	55.7
10 万ドル未満	-1.1	0.9	-0.1	-0.7	-0.3	-2.4	-1.5	-1.6	-1.7	-4.2

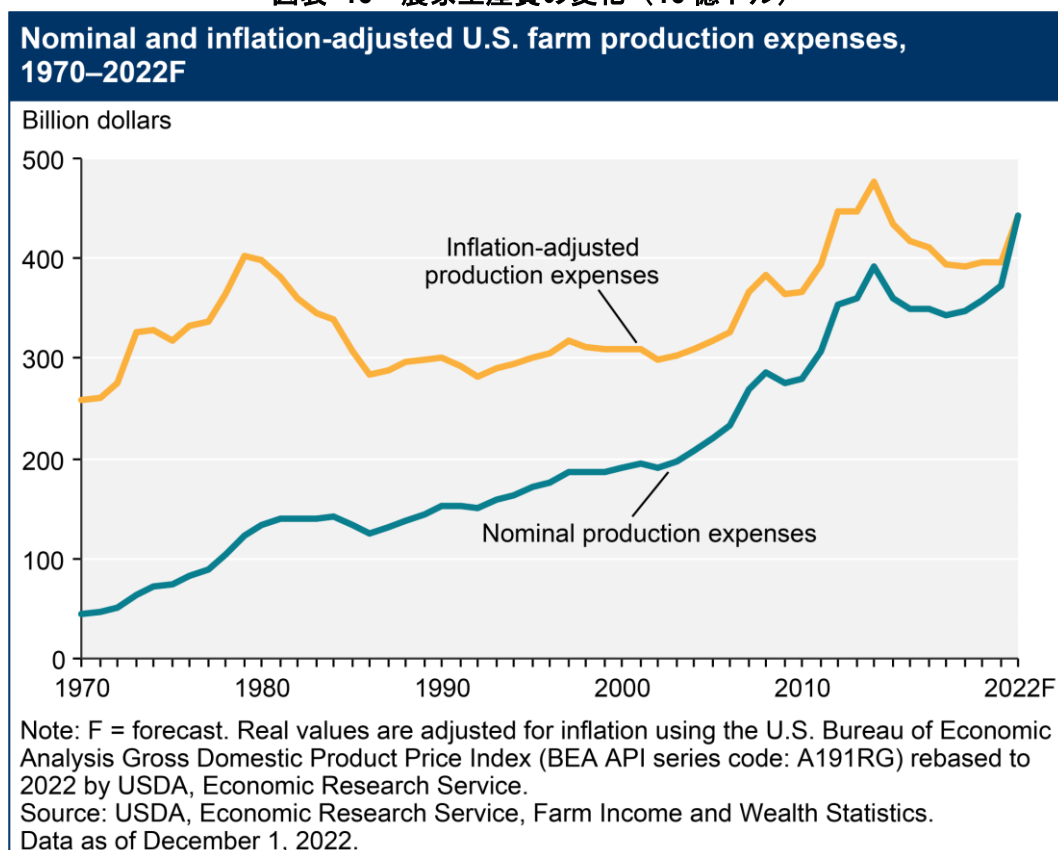
（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, Farm-level average net cash income by sales class and typology, 2013-2022F.

(2) 生産コスト

図表 10 は、農家生産費（farm production expenses）の推移を示している。2022 年の農業生産費は 4,420 億ドルであり、前年比で 699 億ドル、18.8%の増加になると予想されている。これは過去最大の上昇幅ではある。

図表 10 農家生産費の変化（10 億ドル）

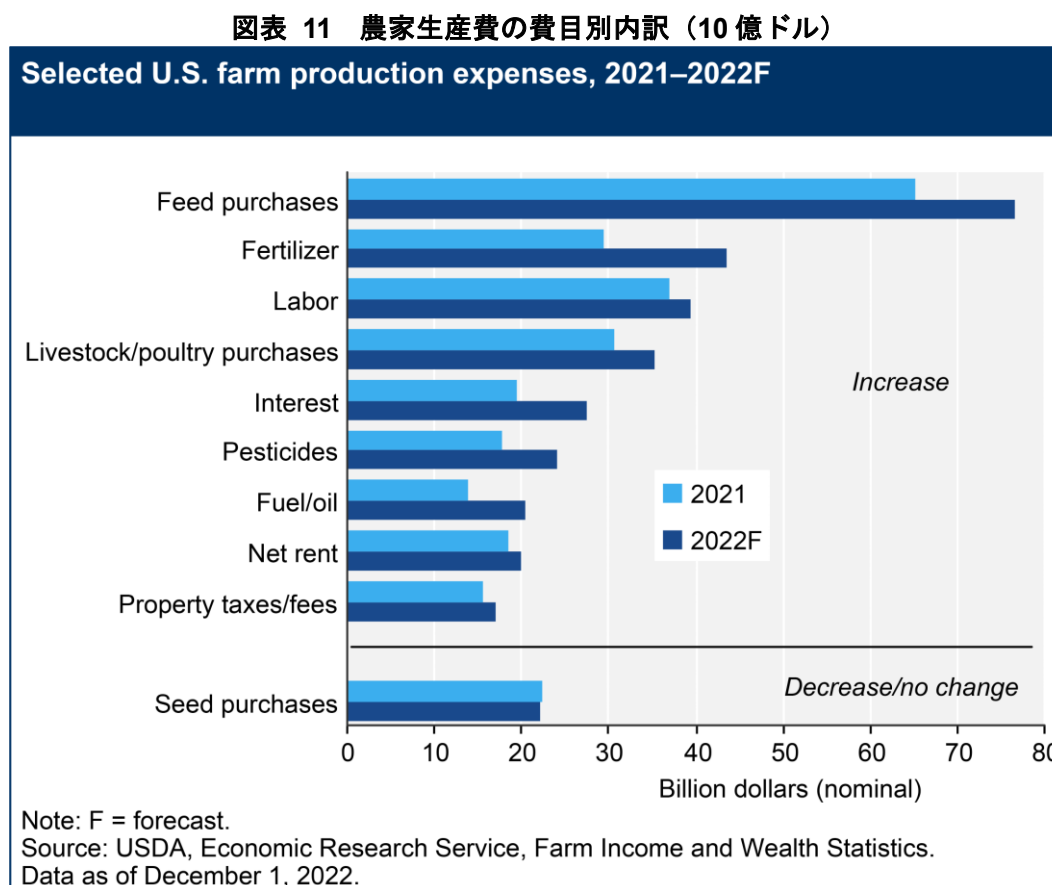


（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022.

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

図表 11 が示すとおり、多くの費目で生産コストが上昇している。2022 年の家畜の飼料費は 766 億ドル（前年比 113 億ドル、17.4%増）、肥料や土壌改良剤の費用は 434 億ドル（前年比 139 億ドル、47%増）と見込まれている。



（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022.

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

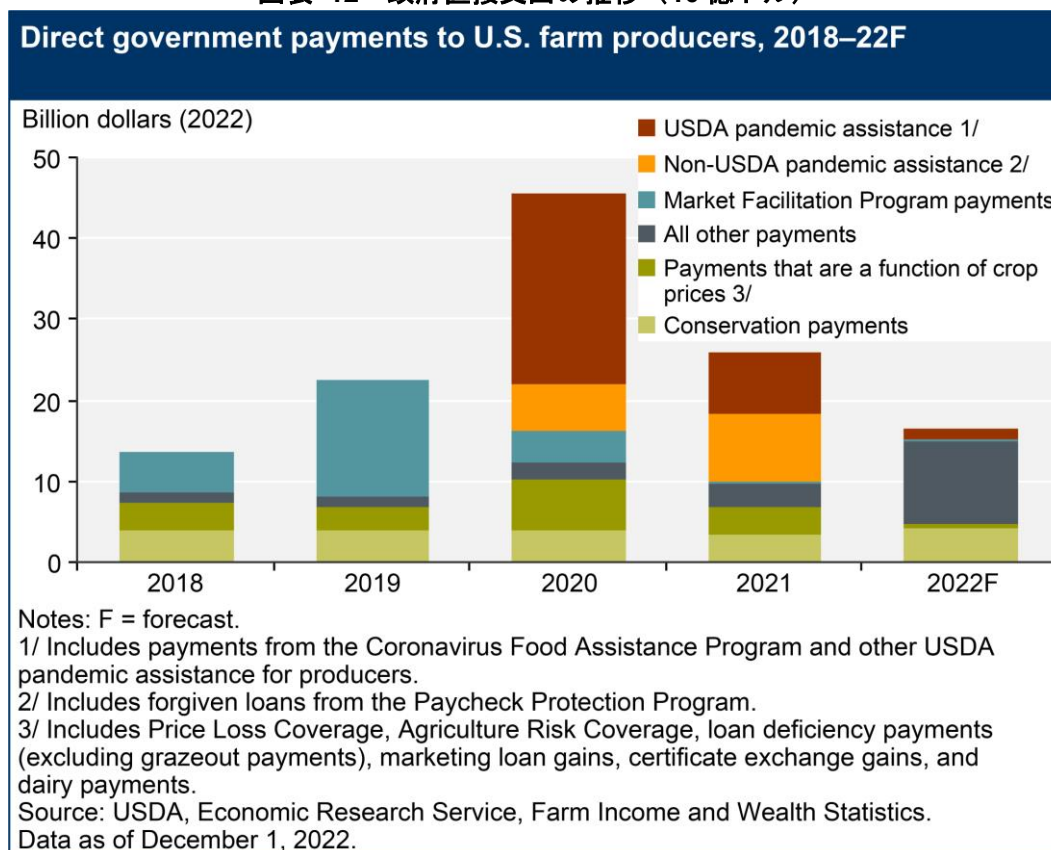
(3) 政府直接支出

2022 年 12 月 1 日に発表された ERS による推計では 2022 年は政府直接支出（direct government payments）⁵が前年比で大幅に減少すると予想されている。新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19 またはコロナと省略）対策により政府直接支出は 2020 年に 456 億ドルに達したが、2021 年には 259 億ドルに減少し、さらに 2022 年には 165 億ドルにまで下がると予想されている。これは、主に COVID-19 対策の政府直接支出額の減少によるものである⁶。

⁵ この政府直接支出には作物保険の保険金と USDA の融資は含まれない。

⁶ USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022, <https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

図表 12 政府直接支出の推移（10 億ドル）



（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022 より転載。

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

図表 13 災害やコロナ対策に関する政府直接支出の変化

プログラム	政府直接支出の変化
USDA のコロナ対策	- Coronavirus Food Assistance Program (CFAP) などの支出減。 235 億ドル (2020 年) ⇒ 75 億ドル (2021 年) ⇒ 12 億ドル (2022 年)
USDA 以外のコロナ対策	- 米国中小企業庁 (SBA) による支援である Paycheck Protection Program (PPP) の支出減。 86 億ドル (2021 年) ⇒ 支払いなし (2022 年)
その他災害支援	2018 年農業法による災害支援。Extending Government Funding and Delivering Emergency Assistance Act によって導入された緊急救済プログラム (Emergency Relief Program; ERP) と緊急家畜救済プログラム (Emergency Livestock Relief Program: ELRP) による支出増。 - インフレ抑制法 (Inflation Reduction Act: IRA) による支出増。 29 億ドル (2021 年) ⇒ 107 億ドル (2022 年)

（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022。

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

2018 農業法プログラムの支出額も減少が見込まれている。2022 年の農業法プログラムの政府支出について、作物プログラムの中心である農業リスク補償（ARC）と価格損失補償（PLC）の 2 つのプログラムの合計支出額は 2021 年比で 90.3%の減少、酪農利幅補償プログラム（DMC）は保険料収入が政府支出額を上回ると予想されている。一方で、保全プログラムは約 42 億ドル（前年比 18%増）になると見込まれている（作物プログラムの概要と実施状況は 4.3、保全プログラムの概要と実施状況は 5.3 で後述）。

図表 14 主な 2018 年農業法プログラムに関する政府直接支出の変化

プログラム	政府直接支出の変化
ARC/PLC	・ ARC : 1 億 1,747 万ドル (2021 年) ⇒ 1 億 500 万ドル (2022 年) ・ PLC : 21 億ドル (2021 年) ⇒ 2 億 4,860 万ドル (2022 年)
DMC	・ 11 億 4,836 億ドル (2021 年) ⇒ 8,575 万ドル (2022 年)
保全プログラム	・ 35 億 3,329 万ドル (2021 年) ⇒ 41 億 6,869 万ドル (2022 年)

（注）2022 年は予測値。

（出所）USDA/ERS, “2022 Farm Sector Income Forecast,” December 1, 2022。

<https://www.ers.usda.gov/topics/farm-economy/farm-sector-income-finances/farm-sector-income-forecast/>.

【参考：米国の PSE】

OECD は、各国の農業支持の比較分析のため「生産者支持推定量（Producer Support Estimate: PSE）」という指標を用いている。PSE は「農業者に対する消費者あるいは納税者からの直接的な移転額」として定義され、直接支払と市場価格支持で構成されている。以下、参考として OECD 加盟国と比較した場合の米国の農業支持の水準を見るため、PSE 及び生産者所得に占める農業支持の割合（%PSE）を示す。

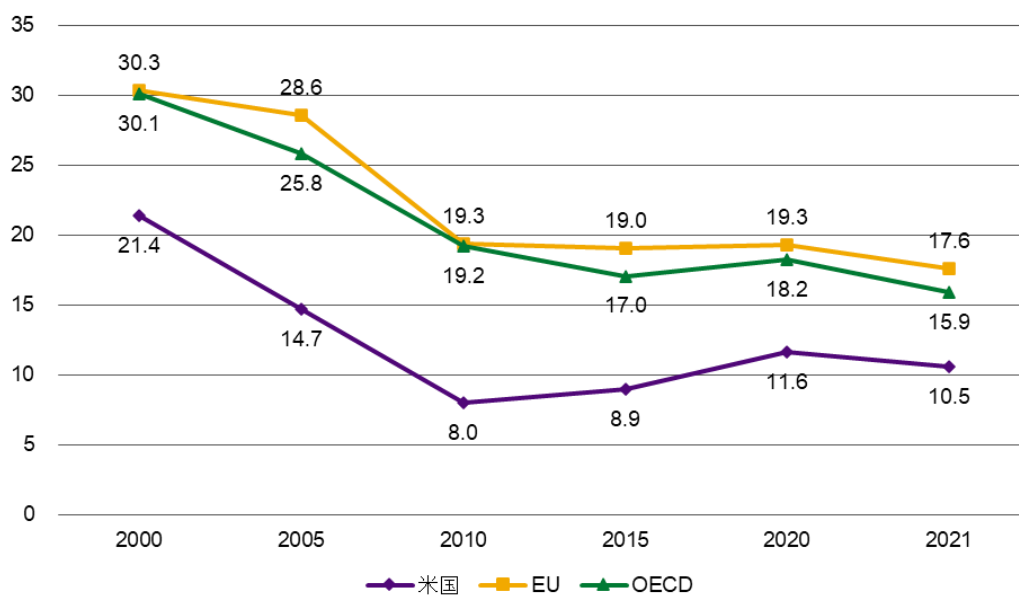
図表 15 米国、EU 及び OECD 諸国の PSE（単位：100 万ドル）

	2000	2005	2010	2015	2020	2021
米国	48,004	39,028	28,497	36,098	48,864	53,045
EU	79,864	116,322	100,291	94,267	103,988	97,980
OECD 諸国合計	232,205	257,025	249,513	220,596	252,441	245,375

（出所）OECD, “Agricultural Support,” をもとに MURC 作成。

<https://data.oecd.org/agrpolicy/agricultural-support.htm>.

図表 16 米国及び OECD 諸国の %PSE



（出所）OECD, “Agricultural Support,” をもとに MURC 作成。

<https://data.oecd.org/agrpolicy/agricultural-support.htm>.